

茶園の秋整枝時期

農業研究センター 茶業研究所

研究のねらい

最近、一、二、三番茶の摘採期が早くなったことから、秋整枝時期を従来より早める傾向にある。また、このことが翌年一番茶の生育、収量の好結果に結びついている事例も多く観察されている。そのため、本県における秋整枝の適期について検討した。

研究の成果

1. 整枝時期を9月25日、10月5日、10月15日及び10月25日として試験した結果、次の成果が得られた。
 - (1) 越冬芽の大きさは、整枝時期が早いほど大きくなる傾向が明らかにみられた。また、整枝後の再萌芽率は、9月25日で13.6%、10月5日で7.6%であったが、10月15日以降の整枝ではほとんど再萌芽はみられなかった。(表1)
 - (2) 一番茶の萌芽は、整枝時期が早いほど早くなり、萌芽期は9月25日が10月25日に比べて5日早くなった。(表2)また、摘採期も整枝時期が早いほど早まる傾向が明らかにみられた。
 - (3) 一番茶の生葉収量は、9月25日と10月5日はほぼ同等で、10月15日及び10月25日に比べて多かった。ただし、9月25日整枝の新芽の生育は、芽数は多いが芽長が短い傾向がみられたのに対し、10月5日整枝では新芽の伸び、揃いともに最も優れていた。
 - (4) 以上のことから、秋の整枝時期としては10月5日が適期であると考えられた。
2. 普及地域 従来から秋整枝を行っている地域

普及上の留意点

従来の整枝時期(10月下旬)に比べると、翌年一番茶の萌芽が5日程度早くなり、晩霜害を受け易いので防霜対策に留意する。

表 1 越冬芽の大きさ及び再萌芽率（2月10日調査）

整枝時期	越冬芽の大きさ(mm)		再萌芽率 (%)
	頂芽	側芽	
9月25日	10.3	10.0	13.6
10月 5日	9.6	8.4	7.6
10月15日	8.6	6.4	1.6
10月25日	8.1	5.7	1.1

表 2 一番茶の生育、収量

整枝時期	萌芽期 (月日)	芽長 (cm)	芽数 (本)	百芽重 (g)	出開度 (%)	生葉収量 (g/m ²)
9月25日	3.31	5.7	60	64.8	76	898
10月 5日	4.1	7.4	52	72.4	55	888
10月15日	4.3	5.8	51	56.6	54	723
10月25日	4.5	6.5	49	61.5	43	678

注) 芽数は20cm枠内、生葉収量は摘採面当たり